

史跡綴喜古墳群での これからの取り組み

史跡綴喜古墳群では、保存活用計画に基づき、次の事業を行います。また、これらの事業を通じて、史跡を守り、活用し、将来の世代に伝える活動を進めていきます。

保存管理

整備後の
環境維持



大住車塚古墳



良好な
里山風景の
維持

放置竹林の
適切な管理



天理山古墳群

活用

京都
府立大学との
連携授業



発掘調査の
現地説明会



シンポジウム
の開催



調査

発掘調査
状況



天理山3号墳



発掘調査
状況



天理山3号墳

出土した
円筒埴輪

整備

埴輪列の
復元



他地域の例

説明板の
設置



園路の整備



他地域の例

運営・ 体制

京田辺市が中心となって、住民や京田辺市で活動する団体、八幡市をはじめとする近隣市町や各種学校、研究機関などと連携し、協力体制を構築しながら、取組を進めていきます。

概要版

史跡綴喜古墳群（京田辺市域）保存活用計画

綴喜古墳群とは

綴喜古墳群は、4世紀から5世紀にかけて、京田辺市から八幡市にわたる広い範囲に造られた古墳群です。同古墳群のある南山城地域は、奈良盆地と日本各地を結ぶ交通の要衝であり、南北を流れる木津川は、当時の物資運搬において重要な役割を担っていました。綴喜古墳群は、木津川を使って交易をしていた豪族たちの古墳群と考えられています。綴喜古墳群は、当時の政治動向や古墳の築造を考える上で重要な古墳群といえます。

令和3(2021)年に天理山古墳群(京田辺市薪)の発掘調査が行われました。これ以前は、京田辺市から八幡市にかけて見られる古墳群に若干の空白地帯があると考えられていましたが、天理山古墳群の調査成果によって、この空白地帯が埋まり、綴喜古墳群の一体性がより明確になりました。

史跡とは

日本の歴史を理解する上で欠かすことができず、学術的に価値がある遺跡などについて、国が「史跡」に指定し、その保護を図ります。令和4(2022)年に、綴喜古墳群のうち、大住車塚古墳(昭和49(1974)年に単独で史跡指定)、天理山古墳群、飯岡車塚古墳、八幡西車塚古墳が、国の史跡に指定されました。この保存活用計画では、4つのうち八幡西車塚古墳を除く京田辺市域の古墳(古墳群)を対象としています。



大住車塚古墳



天理山古墳群



飯岡車塚古墳

保存活用計画とは

京田辺市では、綴喜古墳群を大切に守り、多くの人に知ってもらう取組を行うために、その基本方針となる保存活用計画を策定しました。計画では、綴喜古墳群の価値を整理した上で、古墳群を守っていくための基本的な考え方や、古墳群を管理していく上での方針、今後の調査や整備の方向性などを定めています。

この計画は、考古学や自然環境などの専門家と地元の代表によって構成される検討会議において、令和5・6年の2年間をかけて検討を行い作成したものです。計画期間は10年間となりますが、10年経過後も必要に応じて見直しを行いながら、綴喜古墳群を守り伝えていくための取組を引き続いて進めていきます。

保存活用計画の主な役割

- Point 01 史跡綴喜古墳群の価値を整理する
- Point 02 古墳群の保存管理や整備を適切に行うための方針を定める
- Point 03 どのように古墳群の調査を進め、活用していくかの方向性を定める
- Point 04 現状を変更する場合の取扱基準を定める

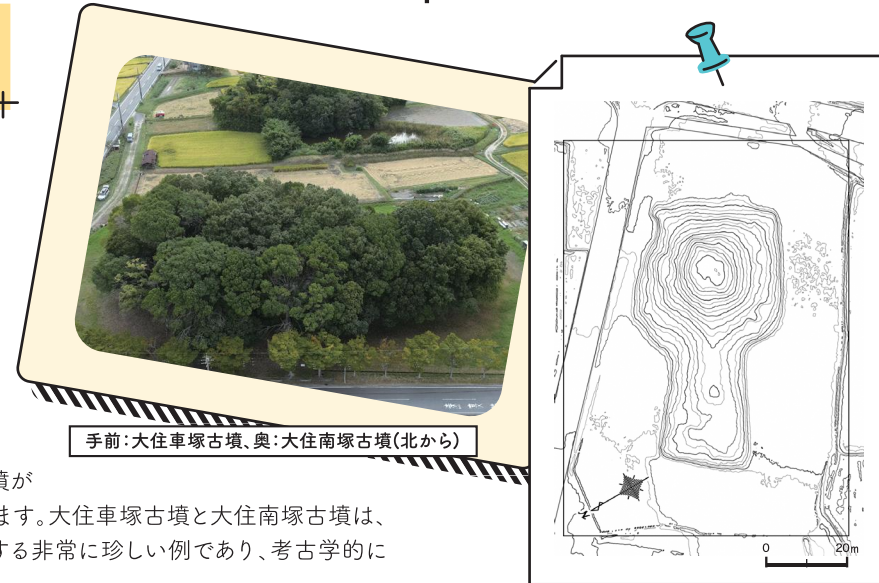
史跡綴喜古墳群を構成する京田辺市の古墳

おおすみくるまづかこふん 大住車塚古墳

全 長：66m
墳 形：前方後方墳
年 代：西暦 400 年頃
別 名：チコンデ山(智光寺山)古墳
指 定：昭和49(1974)年に
単独で国史跡に指定される

特徴 墳丘には葺石があります。また墳丘のまわりには長方形の周溝が巡っています。

注目点 大住車塚古墳の南西には大住南塚古墳があり、南東には姫塚古墳(円墳)があります。大住車塚古墳と大住南塚古墳は、同じ規模の前方後方墳が並んで存在する非常に珍しい例であり、考古学的に貴重な遺跡です。



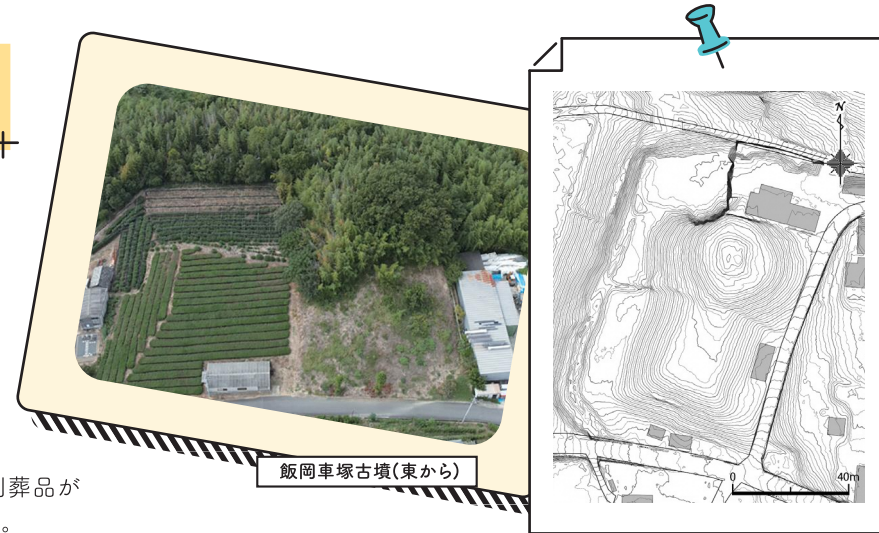
手前：大住車塚古墳、奥：大住南塚古墳(北から)

いのおかくるまづかこふん 飯岡車塚古墳

全 長：90m
墳 形：前方後円墳
年 代：西暦 350 年頃

特徴 墳丘からは葺石や楕円筒埴輪が見つっています。

注目点 埋葬施設からたくさんの石製品(石釧・勾玉など)が出土しました。市内で一番大きい古墳であり、かつ副葬品が明らかになっている古墳として貴重です。



飯岡車塚古墳(東から)

これからの 史跡綴喜古墳群の ために

かけがえのない生きた文化財として綴喜古墳群を将来世代に引き継いでいく



てんりやまこふんぐん 天理山古墳群

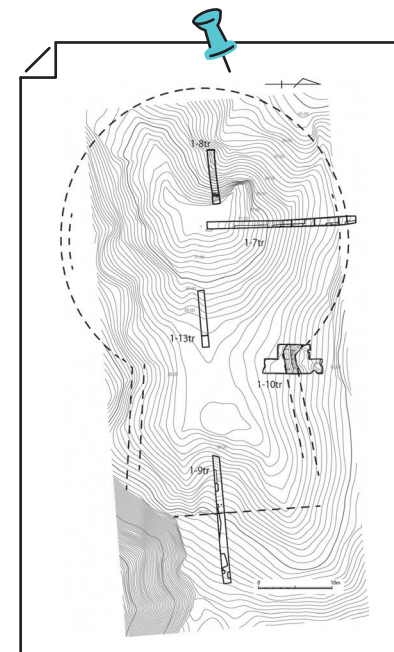
それぞれ古墳の規模や構造、出土品の違いから、時代とともに変化する古墳の特徴を観察できる貴重な古墳群といえます。

天理山 1 号墳

全 長：57m
墳 形：前方後円墳
年 代：西暦 370 年頃

特徴 円筒埴輪と家形埴輪の破片が出土

注目点 自然地形を削り、古墳の形を作り出している

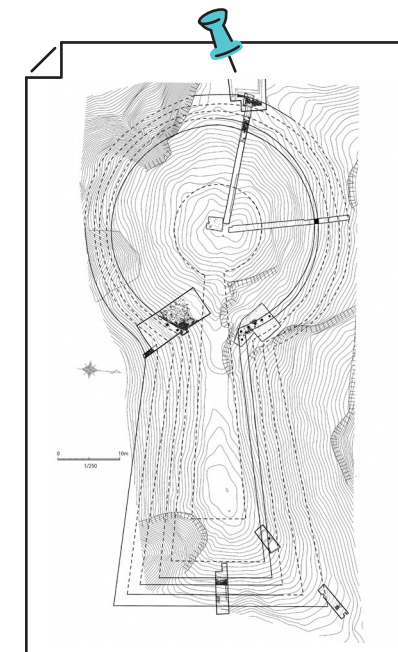


天理山 3 号墳

全 長：82m (3 基の中で最大)
墳 形：前方後円墳
年 代：西暦 400 年頃

特徴 葺石や埴輪列が確認される円筒・朝顔形埴輪、土師器が出土

注目点 墳丘の外側で埴輪棺を検出

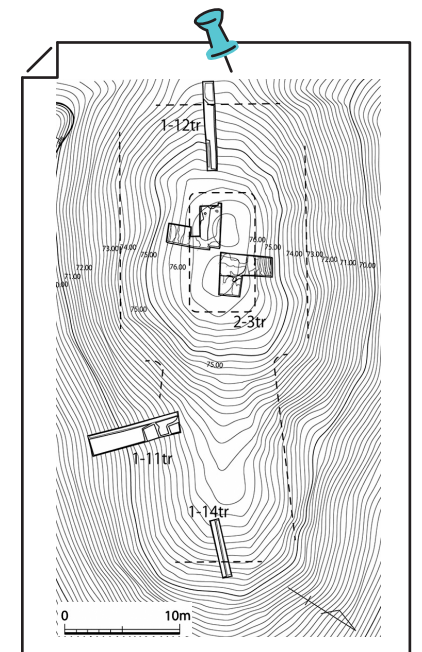


天理山 4 号墳

全 長：42m
墳 形：前方後方墳
年 代：西暦 350 年頃

特徴 葺石や埴輪はなかったとみられる墳頂から土師器が出土

注目点 埋葬施設で水銀朱を検出



※天理山 2 号墳については現在所在を確認できていません。

史跡綴喜古墳群については、豊かな自然に包まれた歴史的文化的遺産として位置づけ、その価値を確実に保護し、未来に向けて継承する必要があります。そのため、本市では次のような基本方針を設けて事業を進めます。

史跡綴喜古墳群の保存活用事業の基本方針

保存管理

日常的・定期的な清掃美化や下草刈り、植生管理を行い、古墳群の確実な保存と管理に取り組む。

活用

体験や学習ができる機会を充実させるとともに、教育や観光などの分野でも古墳群の活用を進める。

調査

必要に応じて発掘調査を実施するほか、古墳群に関する情報を収集し、体系的に記録、整理、考察する。

整備

保存のための適切な整備を行うとともに、生物多様性の保全につとめる。また、活用効果を最大限発揮できる整備を行う。

運営・体制

庁内外の連携体制の充実強化を図るとともに、市民をまじえての保存活用体制を検討する。